

GSJ 地質ニュース投稿・執筆手引 (マニュアル)

GSJ 地質ニュース編集委員会

制定 平成 28 年 10 月 5 日

(趣旨)

第 1 条 本マニュアルは GSJ 地質ニュースへの投稿・執筆の手引として定めるものである。

(投稿の手続)

第 2 条 投稿者は、所定の様式の伝票（別紙様式 1）を添えて GSJ 地質ニュース編集委員会が指定する形式の電子ファイルとプリントした原稿 2 部を GSJ 地質ニュース編集委員会事務局（地質情報基盤センター出版室）に提出する。なお、オリジナルの原稿と電子ファイルは著者が保管する。

(最終原稿の提出手続き)

第 3 条 審査結果に基づいて修正された原稿を印刷し、電子ファイルと共に事務局へ提出する。

(原稿の構成と形式)

第 4 条 原稿は和文とし、図・表・写真を含め、原則として刷り上がりを 4~6 ページとする。そのカテゴリーは別途定める「GSJ 地質ニュースの編集について」に従うものとする。

(原稿の体裁)

第 5 条 プリント原稿の書式は A4 判縦用紙に横書きとし、次の基準に従うものとする。

- 一 和文の場合は、文字サイズ 10 ポイント・30 行／ページ程度とし、上下左の余白は 3cm、右余白を 5cm 程度確保する。
- 二 装飾文字は原則としてそのままプリントするが、正しくプリントできない場合はプリント原稿に赤で必要な指定を記入する。
- 2 審査後の最終原稿では、必要に応じて特殊文字・外字・上付き及び下付き文字、ならびに字体などの指定を、本文プリントアウト原稿に赤で指定する。
 - 一 生物・化石のラテン語学名や数式中の変数名などのイタリック字体……………1 本の下線
 - 二 ゴチック（日本語）・ボールド（外国語）などの太字体……………波形の下線
 - 三 上付き文字・下付き文字……………∨・∧の指定
- 3 複雑な数式などの場合は、これに代わる分かり易い方法で指定してもよい。また、図表挿入位置は、審査後に提出する本文プリントアウト原稿の右余白に指定する。

(構成要素ごとの原稿執筆要領)

第 6 条 タイトルページ

- 一 表題：簡潔でかつ論文の内容を十分に表現するものとする。
- 二 柱：和文 30 字相当以内で表題を簡略化したものとする。
- 三 著者名：日本語表記は姓名の順。所属を示すために右上に数字をつける。連名の場合、

間を「・」(中黒)で繋ぐ.

(例) 地質 太郎¹⁾・筑波 山代²⁾・鹿島灘 波子³⁾

- 四 所属: 三に対応する所属を記入する. 所外の著者の場合には勤務先及び所在地を, 元所属が在職中の研究成果を投稿する場合は, その研究時の所属部門等と現勤務先及び所在地を併記する.

(例)

- 1) 産総研 地質調査総合センター地圏資源環境研究部門
 - 2) 山霞中学校 〒305-9999 茨城県つくば市山霞 1-1-1
 - 3) 日本学術振興会特別研究員, 産総研 地質調査総合センター地質情報研究部門
- 五 キーワード: 一般化した短い語句から 10 個以内を選定してタイトルページに記載する.

(例)

- 1) 対象物: レアメタル, 酸性雨, 菱刈鉍山, 濃飛流紋岩
 - 2) 作用・機能・現象・概念: 温室効果, 金鉍化作用, 富鉍帯
 - 3) 学問分野・手法: 地質年代学, 古生物学, 鉍床学, K-Ar 年代測定法, EPMA, コンピューターシミュレーション
 - 4) 地域: 秋田県, 東シナ海, 北太平洋, カリフォルニア
 - 5) 地質時代: 完新世, 新第三紀, 原生代, 先カンブリア代
- 六 著者名(姓名順)及びタイトルの英語表記: 名は略さず表記する. 名の頭文字と姓を大文字とする. 連名の場合, 「,」(カンマ)と and で繋ぐ.

(英語連名表記の例) ISHIHARA Shunso, NAITO Kazuki and MOMO Taro (2016) Origin of granites.

- 2 本文(本文以外に関する一般則を含む)

- 一 原稿 2 ページ目以降を本文とする.
- 二 書き出し・改行は 1 字あけ, 句読点, 引用符, その他の記号も含め, 全角文字を使用する. 句点には「.」, 読点には「,」を用い, 同格名詞の並記には「・」(中黒)を用いる. 行の末尾で年や外国語が途切れても空欄やハイフンは入れず, ベタ打ちとする.
- 三 漢字まじり平仮名書き現代仮名使いによる. 漢字は常用漢字表に従う. ただし, 固有名詞や広く用いられている学術用語はこの限りでない. 難しいあるいは読み間違いやすい地名・固有名詞等にはルビを振. 送り仮名は, 同一原稿内では統一する.
- 四 アルファベットは半角を用いる. 数字は, 数量を表す際には原則としてアラビア数字とし, 半角文字を使用する.
- 五 単位は原則として SI (国際単位系) を使用する. 温度 (°C) を除いて, 単位と数字の間は半角スペースを入れる.

(例) 15 cm

- 六 年と年号は西暦で表記. ただし, 歴史地震などは, 天明**(17**)年あるいは 17** (天明**) 年なども可.

- 七 緯度・経度の表記は, 世界測地系に基づいた数値で行う. 但し, 必要があつて東京測地系(平成 14 年 4 月施行の測量法改正の前の日本測地系)での数値を示す場合は, その旨を明記する. なお, 分単位未満の桁を表示しない概数値を示す場合は, この限

りではない。

八 外国語（ローマ字）表記の人名は、頭文字のみを大文字とし、第二字以後は小文字を使用する。

九 見出しは番号を振り、その行の前後は1行あける。

（例）1. はじめに

十 脚注は避ける。必要ならば本文中に（注1）などとし、対応する説明部分を本文末尾に列記する。

（文献の引用）

第7条 文中での文献の引用は、著者名と年号の併記で示す。日本語の場合、著者が2名の際には姓を「・」で繋ぎ、3名以上の際には筆頭著者の姓の後に「ほか」を付ける。外国語（ローマ字）の場合、著者が2名の際には姓を「and」で繋ぎ、3名以上の際には筆頭著者の姓の後に「*et al.*」（イタリック指定）を付ける。姓と年号から引用文献の識別ができない場合は、年号の後に小文字のアルファベットを付けて区別する。単行本などの引用の場合には、できるだけ引用箇所のパージも明記する。また、著者名が紛らわしい場合は、姓名を完記する。

（例）

関(2001)によれば、会津盆地南西方の山地には先第三系の堆積岩が……

倉本・中尾(2002)はこのような報告をしている。

これらの研究(角井ほか, 1998; 藤岡, 1985a, b)によると……

Baumgartner, ed. (1995, p.347-421)に示されたとおり……

Shibata and Nozawa (1967)の年代値は……

……と考えられるようになった(Pessagno *et al.*, 1977).

高橋雅紀(1997)の考えに対して高橋正樹(1998)は反論した。

2 脚注は、著者の所属以外には原則として使用しない。

3 引用文献

一 引用文献は、本文の最後に「文献」として著者名のアルファベット順に記す。筆頭著者が同じ場合は、本項第二号に定めた規則により並べる。3文字の人名の時は、姓と名の間は1文字あける。

（例）愛 上雄

二 引用文献の表記は、「著者名（発行年）論文タイトル. 雑誌名, 巻数（ボールド）, ページ数」とする。巻数(Vol.)と号数(No.)のある文献は番号を省略する。巻数がない場合は号数（非ボールド）を入れる。

三 筆頭著者が同じ論文は、単著論文、2名共著論文、3名以上の共著論文の順に並べる。単著論文は発表年順、2名共著論文は第2著者のアルファベット順を優先した上で発表年順に並べ、3名以上の共著論文は筆頭以外の著者名に関らず筆頭著者ごとの発表年順とする。これは、3名以上の文献を本文中で引用する場合、「(Pessagno *et al.*, 1977)」、「高橋ほか(1997)」などの表現となり、第2著者以降の名前が隠れてしまうため。

四 外国語（ローマ字）表記では、雑誌名及び単行本のタイトルはイタリック、巻はボールド表記とし、それ以外はローマン表記とする。

五 公的機関のウェブサイトを引用する場合は、「地質調査所(2011)ウェブサイトタイトル, <http://www.gsj.go.jp> (参照日日付け)」などの形で表現する.

(例)

- 秋山雅彦 (1994) 炭素の地球化学的サイクルと大気・海洋の起源. 地球科学, **48**, 279-283.
- 秋山雅彦 (1995) よみがえる分子化石ー有機地質学への招待. 共立出版, 東京, 120p.
- 秋山雅彦・下山 晃 (1988) アミノ酸のラセミ化による年代測定. 地質学論集, no. 29, 129-142.
- 秋山雅彦・氏家良博 (1976) イソロイシンのラセミ化と地質学への応用 (その2)ー関東地方の更新世化石を例としてー. 地球科学, **30**, 186-190.
- Akiyama, M., Shimoyama, A. and Ponnamparuma, C. (1982) Amino acids from the late Precambrian Thule Group, Greenland. *Origins of Life*, **12**, 215-227.
- 小松正幸・小山内康人・豊島剛志 (1989a) 日高変成帯の温度ー圧力ー変形史. 月刊 地球, **11**, 239-244.
- Komatsu, M., Osanai, Y., Toyoshima, T. and Miyashita, S. (1989b) Evolution of the Hidaka metamorphic belt, northern Japan. In Daly, J. S., Cliff, R. A., and Yardley, B. W. D., eds., *Evolution of Metamorphic Belts*, Geol. Soc. Spec. Publ., no. 43, 487-493.
- 松島信幸 (1973) 赤石山地の中央構造線. 杉山隆二編, 中央構造線, 東海大学出版会, 東京, 9-27.
- Mitchum, R. M. Jr. (1977) Seismic stratigraphy and global changes of sea level, part 11: Glossary of terms used in seismic stratigraphy. In Payton, C. E., ed., *Seismic Stratigraphy -application to hydrocarbon exploration*, Amer. Assoc. Petrol. Geol. Mem., no. 26, 205-212.
- 水収支研究グループ編 (1993) 地下水資源・環境論ーその理論と実践ー. 共立出版, 東京, 350p.
- 中野 俊・大塚 勉・足立 守・原山 智・吉岡敏和 (1995) 5 万分の 1 地質図幅「乗鞍岳」, 地質調査所.
- Nakano, S., Otsuka, T., Adachi, M., Harayama, S. and Yoshioka, T. (1995) Geological Sheet Map 1:50,000 "Norikuradake", Geol. Surv. Japan.
- 中野 俊・大塚 勉・足立 守・原山 智・吉岡敏和 (1995) 乗鞍岳地域の地質. 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅), 地質調査所, 139p.
- Nakano, S., Otsuka, T., Adachi, M., Harayama, S. and Yoshioka, T. (1995) *Geology of the Norikuradake district*. With Geological Sheet Map at 1:50,000, Geol. Surv. Japan. 139p. (in Japanese with English abstract 4p.).
- 中江 訓・小松原琢 (2002) 西津地域の地質, I.地形. 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅), 産総研地質調査総合センター, 1-6.
- Nakae, S. and Komatsubara, T. (2002) *Geology of the Nishizu district*, I. Topography. Quadrangle Series, 1:50,000, Geol. Surv. Japan, AIST, 1-6 (in Japanese).
- 小川琢治 (1944) 日本群島. 弘文堂, 東京, 372p.
- Reading, H. G., ed. (1986) *Sedimentary Environments and Facies*. 2nd ed., Blackwell Sci.

Publ., Oxford, 615p.

曾屋龍典 (1971) 秋田駒ガ岳 1970 年の噴火と岩石. 地調月報, **22**, 647-653.

渡辺真人 (1990) 富山県氷見・灘浦地域の新第三系の層序—とくに姿累層とその上位層との間の時間間隙について—. 地質雑, **96**, 915-936.

内野隆之 (2010) 新潟県加茂地域 (蒲原山地西部) に分布する足尾帯前期ジュラ紀付加コンプレックスの地質図と岩相. 地質調査研究報告. **61**, 365-381.

Ohta, E. (1980) Mineralization of Izumo and Sorachi veins of the Toyoha mine, Hokkaido, Japan. *Bull. Geol. Surv. Japan*, **31**, 585-597 (in Japanese with English abstract).

地質調査所 (2011) ウェブサイトタイトル, <http://www.gsj.go.jp> (参照日付付)

地質調査所 (2011) 論文タイトル. 出版物タイトル, **100**, 5-25. doi: 10.7890/A12345.6.

(図・表及び写真)

- 第8条 表紙・口絵以外の原稿の図・表・写真の類を次の3種類に分け, それぞれ番号をつける. 原則として折り込みの図表等は採用しない. 図・表・写真は, 紙媒体では白黒で印刷され, 電子媒体ではカラーで表示される. 通常, 左右 8 cm (片段) で印刷されるので, 完成原稿編集時に縮小してもよいように, 文字・記号・線などの大きさと調和に留意すること. なお, 印刷ページの仕様については, 別紙を参照のこと.
- 一 図: 本文中に入れる図. そのまま印刷できる鮮明な原図または画像ファイルを提出する. 番号は以下の例に従う.
(例) 第 1 図, 第 2 図, ……
 - 二 表: 本文中に入れる記号・文字・罫のみからなるもの. 番号は以下の例に従う.
(例) 第 1 表, 第 2 表, ……
 - 三 写真: 高解像度で印刷する写真. 番号は以下の例に従う.
(例) 写真 1, 写真 2, ……
 - 四 図・表・写真の説明文は, 本文の後の別紙としてそれぞれ別グループ, 番号順に記載すること.
 - 五 図・表・写真の原稿は 1 図ごと, 1 表ごとに別の用紙または別ファイルを使用すること.
 - 六 図・表・写真のプリントした原稿には, 1 枚ごとに鉛筆で著者名, 図・表・図版の番号を略記する. 同じく鉛筆で横置き指定や縮率の希望を記入することができる. 図の内容の大きさを示すには, 何分の 1 としないで, スケールを図中に書く.
 - 七 位置図・地質図などには原則として緯度・経度を入れる. 緯度・経度を入れることができない場合には, 方位を記入する
 - 八 地名及び図名のローマ字表記は, 修正ヘボン式を用いる. ただし, 長音記号は使用しない. また, はねる音 (撥音) 「ん」はすべて「n」を用いる. 分かち書きは国土地理院の表記法に従う. 海底地形は, 海上保安庁の表記法に従う. ただし, 地層名等, 原記載の表記に従う必要がある場合はこの限りではない.
 - 九 著作物あるいは著作物中の図を転載 (一部改変も含む) する場合は, あらかじめ許諾を得て出典を明記する (許諾が必要でない場合を除く).

(表紙・口絵)

第9条 表紙および口絵の原稿は以下の通りとする。

1 表紙

- 一 表紙は、Jpeg 等高画質画像データまたはポジ（スライド）で提出すること。印刷は左右 21cm, 上下 17cm のサイズとなる。
- 二 提出時にトリミング案を示したプリントを添付すること。
- 三 表紙写真の解説文は、1行 25 文字で 5~10 行とする。写真・文の作者が異なるときは、それぞれの氏名を記入する。また、ウェブサイトで公開するために、表紙写真のタイトルの英文を添付する。

2. 口絵

- 一 口絵はページ単位で、1~4 ページの仕上がりとする。1 ページ当たり 2~3 枚で構成。Jpeg 等高画質画像データまたはポジ（スライド）で提出すること。
- 二 提出時にトリミング案を示すとともに、解説文を考慮して写真・図の配置案を添付すること。
- 三 口絵の解説文は、短いタイトルに、1 行当たり 25 文字で 10 行程度の全体の解説文と、それぞれの写真・図の番号に対応した解説文をつける。

(著作権)

第10条 GSI 地質ニュースに掲載された記事等の著作権は、原則として産業技術総合研究所に帰属する。

(保存)

第11条 原稿のデジタルデータは出版室のサーバーに出版後 1 年間保存し、それ以降削除する。

(マニュアルの改廃)

第12条 このマニュアルを改廃した場合は、地質調査総合センター運営会議にて報告するものとする。

1. 原稿提出先

〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 産総研つくば中央 7

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地質情報基盤センター出版
室 GSJ 地質ニュース編集委員会事務局 宛

e-mail: g-news-ml@aist.go.jp

2. GSJ 地質ニュース（本文）の仕上げ

A4 サイズ，2 段組み（1 行 26 文字，片段 43 行），1 ページの字数は最大 2236 文字．